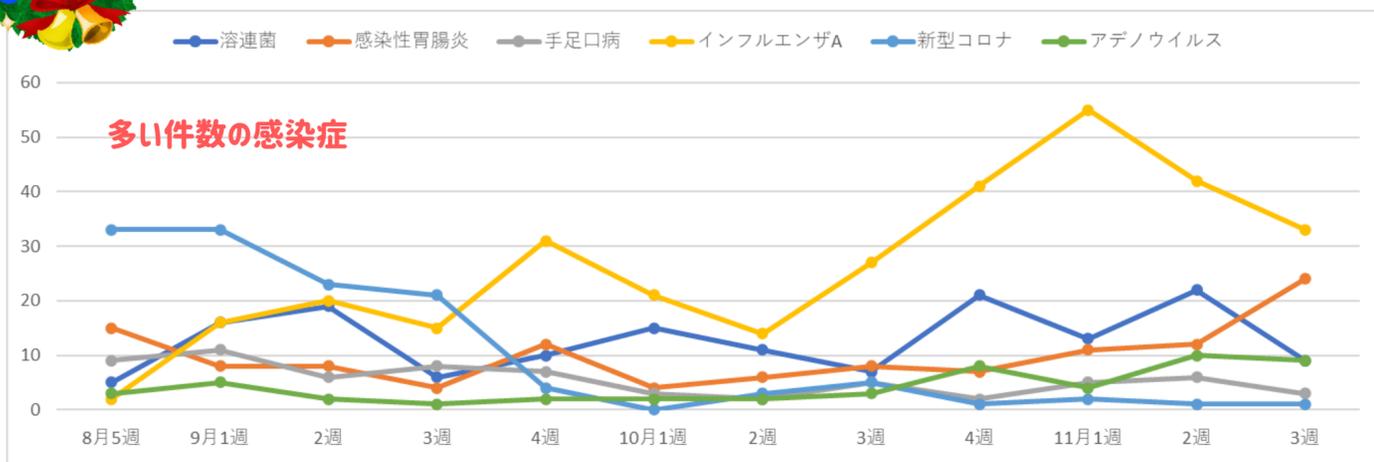


朝晩の冷え込みが身に染みる季節になってきました。10月後半～11月初旬の長浜管内の感染症は、インフルエンザと溶連菌が「例年より非常に多く」報告され、インフルエンザは注意報レベル、溶連菌は警報レベルの流行となっていました。小さいお子さんは体調の変化をうまく伝えることができません。保護者やまわりの大人が「いつもと違う様子や症状がないかな？」と気を配り、体調変化があれば早期からおうちなどでのケアを始め、症状悪化の防止や周囲への感染症拡大を抑えるようにしていきましょう。感染症が流行する冬に向け、感染対策を継続しながら、クリスマスやお正月など冬の楽しいイベントを過ごせるようにしていけるとよいですね



すこやかkidsクリニック 感染症発生状況 (8/28～11/19)



ぽかぽか から お知らせ

感染症が広がり、病児保育を予約してもキャンセル待ちとなってしまう日が続いておりましたが、10月から病児保育室の保育部屋数を拡大しており、病児保育や送迎サービスを利用いただける機会が増えています。(施設の利用状況により1部屋の場合もあります。)

送迎サービスを行っています (※現在の対象は就園児のみ)

登園後、体調不良になったときに、病児保育室スタッフが園にお迎えに行くサービスです。利用には「あずかるこちゃんの登録」と「送迎サービスへの登録」が必要です。
☆送迎サービスへの登録方法が、書面からWEBに変更になりました。
急な体調不良の時にスムーズに利用できるよう事前の登録をおすすめします！



▲送迎サービス登録はこちら

年末年始のお休みについて

12/25 月	26 火	27 水	28 木	29 金	30 土	31 日	1/1 月	2 火	3 水	4 木	5 金
早朝延長と通常保育のみ (8:00～17:00)			休室します (1/4 朝7時から1/5の予約を開始します)								
											開室 保育スタート (利用前診察)

こどもに多い症状の受診の目安とホームケア

参考：教えてドクター！ こどもの病気とおうちケア



発熱

一般的に37.5度以上を発熱と考えます。子どもの発熱の原因で多いのは感染症で、その原因となる病原菌のほとんどがウイルスによるものです。熱は体の免疫反応であり、高熱を出すことで病原体とたたかっています。そのため急いで熱を下げる必要はありません。熱は2～3日続きますが自然に下がることがほとんどです。ウイルスには抗生剤が効かないので、症状に応じたお薬で様子を見ていきます。
(熱が続いたり、耳を痛がったりするなど細菌感染が疑われる場合は、抗生剤で治療することがあります。)



解熱剤

は、一時的に熱を少し下げただけで、病気を治す効果やけいれん予防の効果はありません。熱が高くても元気なら解熱剤を慌てて使う必要はありません。高熱でつらく水分がとれない・眠れないなどの場合に使いましょう。



こんなときはすぐに受診を

- 3ヶ月未満児で38度以上の発熱がある
- ぐったりして顔色が悪い
- 呼びかけてもぼんやりしている(眠ってばかりいる)
- 何度も嘔吐する
- 水分がとれず、半日以上尿が出ない
- 初めてけいれんした

☆熱が3～4日続いていても、元気があり、水分が取れている場合は、夜間や救急受診をする必要はないですが日中に受診の方がよいでしょう。

ホームケア

POINT:こまめな水分補給と体温調節

- 熱をこまめに測りましょう(一般的に朝低く夜高い)
- 朝熱が下がっても、午後から再び発熱することはよくあります。丸一日熱が下がるまで様子を見る方がよいでしょう。
- 元気があれば、ぬるめのお湯で短時間の入浴は可能です。
- 水分補給はこまめに。(×甘すぎたり塩分の強すぎるもの / ○経口補水液・お茶・湯冷まし)
- 熱の出はじめは、寒気がして震えるので保温を。
- 手足が熱く顔も真っ赤になってきたら薄着にし、できれば首や脇の下、足の付け根を冷やしましょう。

咳・呼吸

咳の多くは急性の呼吸器感染症(風邪など)によって起こります。しかし、異物誤飲、急性喉頭蓋炎やアナフィラキシーなど緊急で治療が必要となる場合もあります。長引く咳の中には、副鼻腔炎、気管支喘息、生まれつきの構造的な異常など、継続して治療が必要な場合もあります。

咳や呼吸苦時のチェックポイント

- 突然の咳や呼吸苦か
- 咳や呼吸苦の直前に何か食べたりおもちゃをくわえていたか
- よだれや声がかれていないか

効果的な鼻吸い

- 首が座っていれば、膝にかかえてやりましょう。
- 寝た状態だと喉の方に垂れてしまい、上手く吸えません。
- 吸引チューブや吸引器は説明書を読み正しく使用しましょう。
- 何度かこまめに分けて吸いましょう。



こんなときはすぐに受診を

- 苦しくて顔色が悪い
- 近くにいてぜいぜいが聞こえる
- 肩で呼吸している(肩呼吸)
- 鼻の穴がぴくぴくしている(鼻翼呼吸)
- 鎖骨の上や肋骨の下がくぼんでいる(陥没呼吸)
- 咳き込んで嘔吐してしまい食事がとれない
- 咳き込んで眠れない

ホームケア

POINT:加湿 鼻吸い 水分補給

お部屋を適度に加湿する/鼻水が多いときは吸引も効果的/水分は少量ずつこまめにとる

